

やすらぎの家デイサービスセンター 令和7年度事業報告

デイサービス事業 重点目標 『利用者ひとりひとりが自分らしく生活する』

1. 利用者の確保

1日あたり平均9.65名の利用で稼働率80.4%（前年度69.8%）、平均介護度1.97（前年度2.05）となった。前年度に引き続き、登録人数が徐々に増えるが、利用数日から数か月で入院や入所施設へ移行し、利用1年未満での登録終了するケースが、登録終了者の半数で、全体の登録終了者の半数が入院等身体的理由によるものだった。新規利用も多く、若い世代の方、ボランティアとして利用したい方が増えていった。

2. 事業内容の充実・サービスの質の向上

同じ趣味や特技を持つ小グループをすることで、関係づくりもでき、お互いに仲間意識も持つことができ、声をかけ合う姿が多く見られた。一方で気が合わないとハッキリ意見を言われる方も多く、都度話を聞きながら対応していった。外出を楽しみにされる方も多く、外出の機会を多くもった。身体機能維持を意識した体操や、生活場面で必要と思われる動き、また帰宅後の活動が減るよう日中の活動量を増やすことなど、それぞれのケースのニーズに応じたケアをしていった。

ヒヤリハット報告件数は26件（前年度25件）、事故報告2件、苦情相談5件。

3. 職員の資質向上

ケアの中での細かな気づきは、ノートでスタッフ間の情報共有、対応等スタッフ間で改善策を話し合う必要のあることは、ミーティングを行い、スタッフ間で利用者の気持ちを第一に考え意見交換、質の向上を目指した。ミーティングに参加できなかったスタッフに確実に情報共有できるよう、ミーティングはタブレットで録音、AIで文字起こししたことで、記録も効率よく行えるようになった。家族への連絡ノートへの記載も同要領で行い、時間の効率も改善していった。

外部への研修参加が難しく、タブレットを活用した研修を取り入れた。介護スタッフは個々の目標にそったテーマで、それぞれ自己学習を継続的に行った。

4. 連携と情報公開

タブレット端末の通信アプリが家族に好評で、利用を続けている。家族だけでなく他のサービス、ケアマネジャーとタイムリーに情報共有でき、家族からの介護相談を受ける事や、サービス間の連絡調整、外出時の写真で様子報告も喜ばれている。

運営推進会議は、2回開催。デイサービス営業中に行い、日ごろの雰囲気を見てもらう事ができ、テーマに沿った情報を参加者からも意見を出してもらうことで活発な意見交換ができた。

5. 地域との交流を推進

ほほえみ会ボランティアの皆さんには、活動を続けて頂くことと、運営推進会議へ毎回交代で参加し、地域に根付いた施設の一つとして、地域活動へのアドバイスを頂いている。